Nikon

ニコンライトタッチズーム 100W クォーツデート　Jp

Lite•Touch Zoom Lite•Touch Zoom

Lite•Touch Zoom 100W QD

使用説明書

安全上のご注意

ご使用のまえに「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は次のようになっています。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容が（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

⚠ 警　告（カメラについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

電池を取る

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに十分注意してください。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨に濡らしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。

発光禁止

車の運転者等にむけて、スピードライトを発光しないこと

事故の原因となります。

発光禁止

スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。

見ないこと

ファインダーより直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

⚠ 警　告（カメラについて）

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 注　意（カメラについて）

濡れた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

製品は、幼児の手の届かない所に置くこと

ケガの原因になることがあります。

保管注意

使用しないときは、スライドカバーを閉じて太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び火災の原因になることがあります。

三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。

⚠ 警　告（リチウム電池について）

禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

電池をショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

電池に表示された警告･注意を守ること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

使用説明書に表示された電池を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

保管注意

電池は幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

電池の「＋」と「－」の向きを間違えないようにすること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水かけ禁止

水につけたり、濡らさないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

禁止

充電式電池以外は充電しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

■使用説明書について

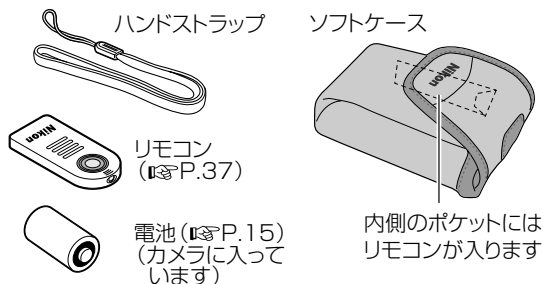
使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、当社サービス機関で新しい使用説明書をお求めください（有料）。

このたびは、ニコン Lite Touch Zoom（ライトタッチ ズーム）100W QUARTZ DATE（QD）をお買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用のまえにこの「使用説明書」をお読みのうえ、十分に理解してから正しくお使いください。

保証書とカスタマ登録カードについて

この製品には保証書とカスタマ登録カードが付いていますので、ご確認ください（保証書の詳細は、☞P.43）。

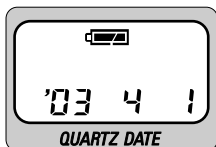
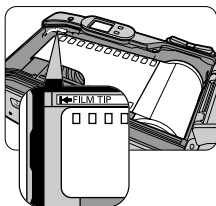
付属品（お確かめください。）

本文中に使われているマークについて

- 前提条件や制約などの要チェック項目が書かれています。
- 注意したり、守っていただきたいことが書かれています。
- ◉ 補足内容が書かれています。
- ☞ 参照ページが書かれています。

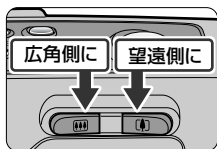
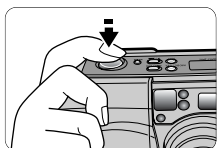
もくじ

すぐ撮影したい方は（早わかり操作ガイド）

1 スライドカバーを開けます。

◉電源が入り、内蔵スピードライトが自動的にあがり、レンズが繰り出します。
（☞P.14）

2 表示パネルで、電池容量が充分なこと（▭）を確認します。（☞P.14）

3 フィルムを入れます。（☞P.16）

◉フィルム先端を緑色のフィルム位置に合わせます。

◉フィルムを入れる際に、レンズに触れないように注意してください。

4 ズームボタンを押して、構図を決めます。
（☞P.22）

5 シャッターボタンを半押しします。（☞P.20）

◉シャッターボタンを軽く押して、途中で止めます。

6 緑ランプの点灯を確認し、シャッターボタンをゆっくり押し込みます。（☞P.20）

◉ピントが合うと、緑ランプが点灯します。（☞P.20）

◉写したいものが暗い場合には、フラッシュが自動的に発光します。（☞P.28）

◉フィルムを撮り終わると、自動的に巻き戻されます。（☞P.23）

フィルムを取り出します。
（☞P.23）

大切な撮影のまえには試し撮りを

大切な撮影のまえには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するか確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸経費および利益の喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

各部のなまえ

本体

赤目軽減ランプ
(☞P.32, 33)
セルフタイマーランプ
(☞P.36)
AE受光窓
ファインダー窓
スピードライト
(☞P.26, 27)
オート
フォーカス
測距窓
表示パネル
(☞P.12)
MODE/SELボタン
●日付選択モード
(☞P.18)
●日付修正モード
(☞P.39)
ADJボタン
(☞P.39)
⚡/▲ ボタン
●スピードライトモード
(☞P.26〜31)
●遠景モード
(☞P.35)
レンズ
リモコン受光窓
(☞P.37)
スライドカバー
(メインスイッチ)
(☞P.14)
電池室
カバー
(☞P.15)
ストラップ取り付け部
(☞P.11)
シャッターボタン
(☞P.19)
途中巻き戻しボタン
(☞P.23)
◉/◌ ボタン
●赤目軽減発光
(☞P.32, 33)
●セルフタイマー
(☞P.36)
●リモコン(☞P.37)
Nikon

緑ランプ
（☞P.13, 20）

オレンジランプ
（☞P.13, 27）

ファインダー
接眼窓
（☞P.13）

ズームボタン（☞P.22）

フィルム確認窓

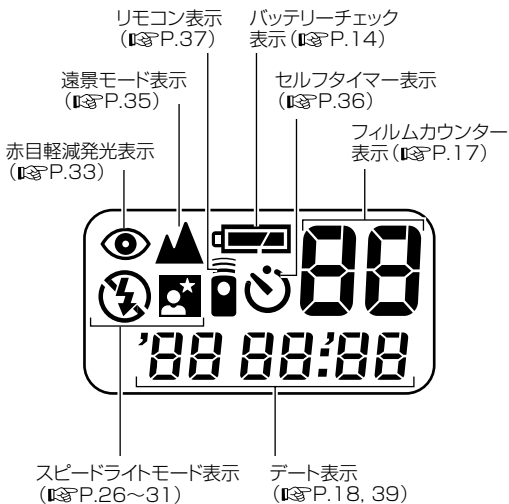
裏ぶた開放レバー
（☞P.16）

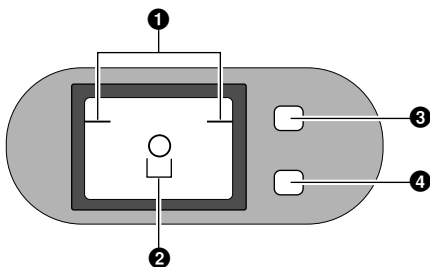
三脚ネジ穴
（☞P.29, 31, 36, 37）

ハンドストラップの取り付け方

図のようにハンドストラップを
通します。

各部のなまえ（つづき）

表示パネル

※ 図は説明のために全ての表示を点灯させたものです。

ファインダー

❶近距離補正マーク（☞P.34）

撮影距離が1mより近い撮影のときに使用します。

❷オートフォーカスフレーム（☞P.20）

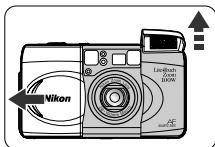
ピントを合わせたいものをこのフレームに重ねてピントを合わせます。

❸オレンジランプ（☞P.27）

シャッターボタンを半押ししたとき、フラッシュの充電が完了していれば点灯します。まだ充電が完了していない場合は点滅します。

❹緑ランプ（☞P.20）

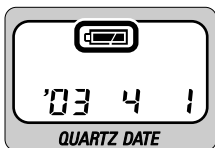
シャッターボタンを半押ししたとき、ピントが合うと点灯します。また近接撮影時に、被写体までの距離が約0.65mより近いときは、点滅して警告します。

電源を入れる

スライドカバーを矢印の方向に、カチッと音がするまで開けます。

◉ 電源が入り、内蔵スピードライトが自動的にあがり、レンズが繰り出します。

◉ スピードライト自動発光モードにセットされます。（☞P.28）

スライドカバーを閉じるときは、はじめにカバーを少しスライドさせてレンズが収納されてから、ゆっくり閉じてください。

電池容量を確認する

表示パネルで、電池容量が充分なこと（　）を確認します。

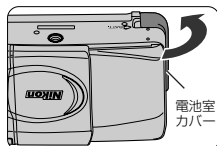
点灯	電池容量は充分です。
点滅	電池容量が少なくなっています。 予備の電池を準備してください。
（電池容量マークなし）	電池を交換してください。

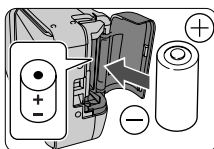
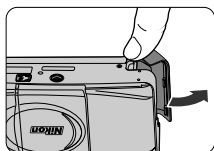
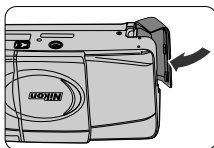
撮影まえには、必ず電池容量を確認し、撮影の際は、新しい予備の電池をご用意ください。特に、海外の地域によっては、電池の入手が困難な場合があります。

電池容量マークのみが消灯（他の表示は点灯）しているときは、撮影をすることはできません。フィルムの巻き戻しのみできます。

電池を交換する

使用する電池

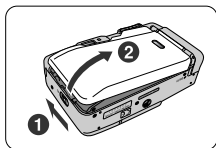
このカメラには、3VリチウムCR123A、またはDL123Aを1個使用します。

1 スライドカバーを閉めて、電源をオフにしたのち、電池室カバーを開けます。

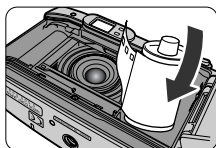
準備

2 電池室の⊕ ⊖の表示に従って電池の向きを間違えないように交換します。

3 電池室カバーをカチッと音がするまでしっかり押して、閉じます。

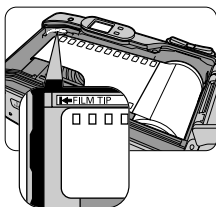
電池を取り出すと、カメラの時計がリセットされることがありますので、日付や時刻を確認してください。(☞P.39)

フィルムを入れる

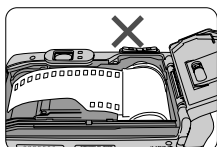
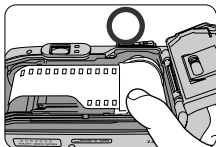
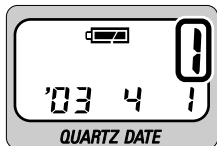
ご使用になるフィルムについて

このカメラには、35mm DXマーク付フィルムをご使用ください。フィルムの感度は、手ブレ防止やフラッシュ撮影に有利な ISO 400 をおすすめします。

1 スライドカバーを閉めて電源をオフにしたのち、裏ぶた開放レバーをスライドさせ（❶）、裏ぶたを開けます。（❷）。

◉直射日光の当たらないところでフィルムを入れてください。

2 フィルムを入れます。

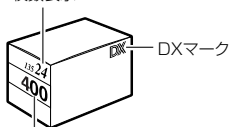
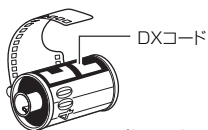
◉フィルムを入れる際に、レンズに触れないように注意してください。

3 フィルム先端を緑色のフィルム位置マークに合わせます。

◉フィルムをフィルム位置マークより手前にしたり、のばしすぎたりすると、フィルムが正しく送られないことがあります。

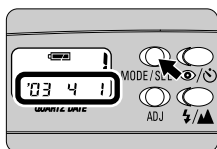
フィルムが浮かないようにパトローネを指で軽く押さえてください。

4 裏ぶたを閉じて、フィルムカウンターに "1" が点灯するのを確認します。

◉裏ぶたを閉じ、フィルムが正しく送られると、"1" が点灯します。

フィルムカウンターに "E" が点滅しているときは、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開けフィルムを取り出して、入れ直してください。

35mmDXマーク付フィルムの豆知識

- ◉ DXマーク付フィルムを使用すると、フィルム感度はカメラが自動的にセットします。
- ◉ 自動セットが可能なフィルム感度はISO 50、100、200、400、800、1600、3200です。
- ◉ DXマーク付以外のフィルムを使用した場合、フィルムの感度は自動的にISO100にセットされます。

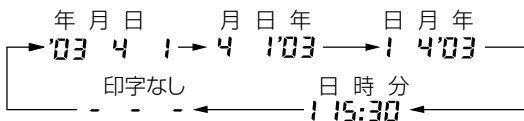
写真に日付や時刻を写し込む

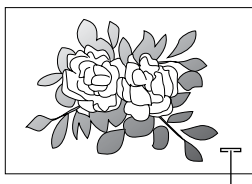
日付・時刻表示の切り換えについて

MODE/SELボタンを押して、日付・時刻表示を選びます。

⦿ 年は西暦の下2桁で、時分は24時間制で表示されます。イラストの例は"2003年4月1日"を表します。

MODE/SELボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

年 月 日 → 月 日 年 → 日 月 年 → 日 時 分 → 印字なし →（年 月 日に戻る）

'03 4 1 → 4 1'03 → 1 4'03 → 1 15:30 → - - - → '03 4 1

⦿ 日付や時刻を写し込まないときは、" - - - "（印字なし）にしてください。

日付や時刻の写し込み位置について

写し込み位置

⦿ プリント上での写し込み位置は上図を目安にしてください。

- 写し込み位置と被写体が次のような場合は、写し込みが判別しにくくなることがあります。
  - ●白いまたは明るい場合
  - ●オレンジや黄色の場合
- フィルムの規定枚数を超えて撮影したコマには、正しく写し込まれない場合があります。

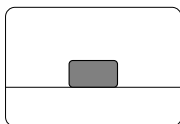
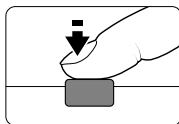
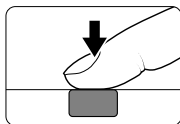
カメラの構えかた

〈横位置の構えかた〉

〈縦位置の構えかた〉

- ⊙ わきをしめ、ひじを体につけて、両腕でしっかり構えます。
- ⊙ 縦位置で撮影する場合は、スピードライトが上になるように構えます。

> 手や髪の毛、ストラップなどで、レンズやオートフォーカス測距窓、スピードライトなどをおおわないように注意してください。
>
> 上にあがったスピードライト部を押し込まないように注意してください。

シャッターボタンの押しかた

〈押す前〉 〈半押し〉 〈押し込んだ状態〉

1 シャッターボタンを軽く押し、途中で止めます（この操作を“半押し”と呼びます）。

- ⊙ “半押し”すると、ピントと露出が決まり緑ランプが点灯します。
- ⊙ “半押し”中は、ピントが固定（フォーカスロック☞P.24）されます。

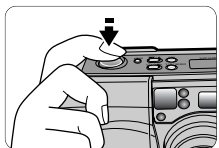
3 “半押し”したまま、さらにシャッターボタンをゆっくり押し込むとシャッターがきれます。

> 一気にシャッターボタンを押すと手ブレ写真の原因になります。シャッターボタンはゆっくりと押し込んでください。

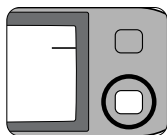
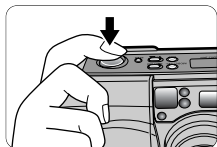
撮影する

1 ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレーム ○ を重ねます。

写したいものがオートフォーカスフレームから外れているときは

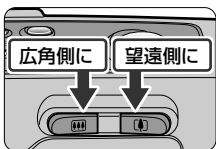
フォーカスロックによるピント合わせをしてください。(☞P.24)

2 シャッターボタンを半押しします（軽く押して、途中で止めます）。

◉ピントが合うと緑ランプが点灯します。

被写体に近づきすぎると緑ランプが点滅します。

撮影距離が約0.65mより近づくと、緑ランプが点滅して警告します（シャッターもきれません）。ただし、近づきすぎると（約30cm以内）、緑ランプが点灯しシャッターがきれることがありますが、この場合ピントは合いません。

3 緑ランプの点灯を確認し、シャッターボタンをゆっくり押し込みます。

◉スピードライト自動発光モードにセットされているときに、写したいものが暗いときには、フラッシュが自動的に発光します。

- 一気にシャッターボタンを押すと手ブレ写真の原因になります。
- 撮影しないときは、スライドカバーを閉じてください。レンズ、ファインダーなどを保護し、電池の消耗を防げます。

ズーミングする

ズームボタンを押して、被写体の大きさを決めます。

- [望遠]側を押すと、望遠（100mm）側になり、[広角]側を押すと、広角（28mm）側になります。
- 好みの大きさになったらズームボタンから指を離します。

[広角] 広角側の作例

[望遠] 望遠側の作例

カメラを操作しない状態が約3分間続くと、レンズが自動的に[広角]（広角）側に戻ります。

フィルムの巻き戻し

フィルムを撮り終わると、自動的に巻き戻されます。

◉ 巻き戻し中は、フィルムカウンターの数値が1コマずつ減り、巻き戻しが完了すると“E”が点灯します。

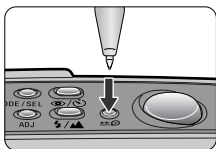
◉ 電池容量不足のために巻き戻しが途中で止まったときは、電池を交換すると、巻き戻しが自動的に再開されます。

“E”が点灯し、フィルム巻き戻しモータが停止するまでは、裏ぶたを決して明けないでください。

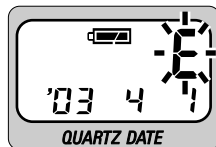
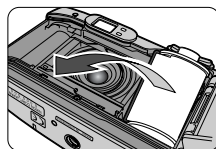
“E”が点灯する前に裏ぶたを開けようとすると、次のようなことが生ずることがありますのでご注意ください。

・フィルムが感光する

・次のフィルムを入れたときにすぐに巻き戻されてしまい、“E”が表示される

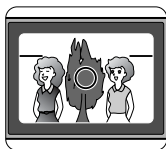
フィルムを途中で巻き戻すには

途中巻き戻しボタン（⏩）をボールペンの先端などで押します。

◉ 巻き戻しが始まればボタンを押し続ける必要はありません。

フィルムを取り出す

1 巻き戻し完了の“E”の点灯を確かめます。

2 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

写したいものが画面中央にないとき

（フォーカスロック撮影）

ピントを合わせたいものが、画面中央のオートフォーカスフレームから外れる位置のときは、ピントを固定したまま構図を自由に変えられるフォーカスロックが便利です。

◉ 上のような構図のまま撮影すると、被写体がオートフォーカスフレーム"○"から外れるため、ピントは背景に合って被写体はピンボケになってしまいます。このような場合にフォーカスロックを利用すると、撮りたい部分のピントを一時的に固定したまま構図を変えて撮影することができます。

1 ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレーム ○ を重ねて、シャッターボタンを半押しします。

◉ピントが合うと緑ランプが点灯し、シャッターボタンを半押ししている間、ピントはそこで固定されます。

撮影距離を変えない

緑ランプが点灯している間は、ピントが固定されていますので、撮影距離を変えないでください。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図を変えてからシャッターボタンをゆっくり押し込みます。

作例

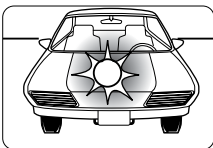
ピント合わせが苦手なシーンについて

次のような被写体にはピントが合わせにくい場合があります。フォーカスロックを利用して、同じ距離にあるものでピントを合わせてから構図を決めて撮影してください。

■ オートフォーカスフレームをカバーできない小さな被写体

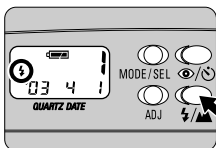
■ ガラス越しの被写体

■ 髪の毛など黒くて光を反射しにくいもの

■ 光っている車のボディや水面など光沢のあるもの

■ 花火、ロウソクの光など、実体のないもの

■ ピントを合わせたい被写体の手前に、別の被写体があるとき

フラッシュを使った撮影

スピードライトモードついて

ボタンを押して、モードを選びます。

ボタンを押すごとに、表示は次のように切り換わります。

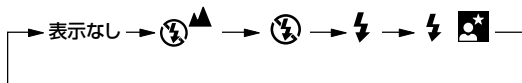



表　示	内　　容
表示なし	**スピードライト自動発光（☞P.28）** 被写体が暗いときにフラッシュが自動的に発光します。
	遠景撮影（☞P.35） 遠くの景色をよりシャープに写します。このときフラッシュは発光しません。
	スピードライトキャンセル（☞P.29） フラッシュの発光を禁止します。
	スピードライト強制発光（☞P.30） フラッシュが必ず発光します。
	夜景ポートレート（スローシンクロ）（☞P.31） 夕暮れや夜景などをバックに、人物をより自然に写します（フラッシュは必ず発光します）。

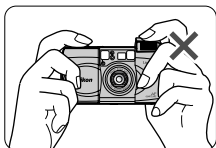
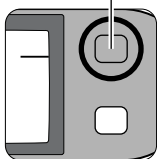
シャッターボタンを半押ししたときのオレンジランプとフラッシュの充電状態について

●オレンジランプが点灯

フラッシュの充電が完了です。フラッシュ撮影ができます。

●オレンジランプがゆっくり点滅

フラッシュの充電が完了していません。いったんシャッターボタンから指を離し、しばらく待ち、再度半押ししてオレンジランプの点灯を確認してから撮影してください。

◉ スピードライトを押し下げるとフラッシュは発光しません。

フラッシュ撮影の距離

カメラと被写体との距離は、下記を目安にしてください。

ISO 100フィルム使用時

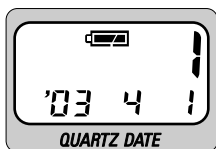
(広角)のとき:約0.65〜3.0m
(望遠)のとき:約0.65〜1.8m

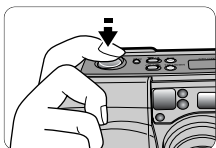
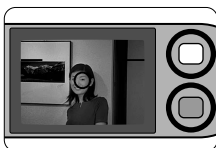
ISO 400フィルム使用時

(広角)のとき:約0.65〜6.0m
(望遠)のとき:約0.65〜3.6m

フラッシュを自動で発光させる

（スピードライト自動発光撮影）

カメラの電源を入れると、自動的にスピードライト自動発光モードにセットされます。被写体が暗い場合は、フラッシュが自動的に発光します。

1 スライドカバーを開けます。

◉電源が入り、スピードライトが自動的にあがります。

2 構図を決め、シャッターボタンを半押しします。

3 オレンジと緑ランプの点灯を確認して、シャッターボタンをゆっくり押し込みます。

作例

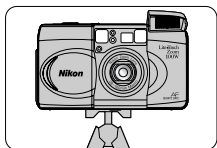
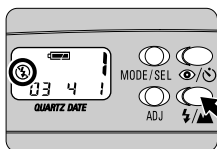
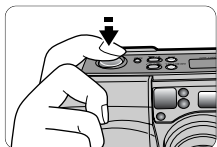
被写体が明るい場合は、半押しすると表示パネルに" "が点灯し、フラッシュは発光しません。

フラッシュの発光を禁止する

（スピードライトキャンセル撮影）

美術館などフラッシュ撮影が禁止されているところや、夕景・夜景の雰囲気を生かしたいときに効果的です。

三脚を使用してください

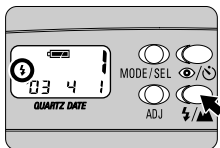
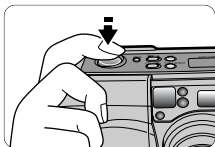
スピードライトキャンセル撮影では、シャッタースピードが遅くなり、手ブレをおこしやすいため、三脚などをご使用になり、カメラを固定してください。

1 カメラを三脚などに固定します。

2 ［⚡/▲］ボタンを押し、“(⚡)”を表示させます。

3 構図を決め、シャッターボタンを半押しします。

4 緑ランプの点灯を確認して、シャッターボタンをゆっくり押し込みます。

作例

フラッシュを強制的に発光させる

（スピードライト強制発光撮影）

意図的にフラッシュを発光させたいときに便利です。

1 ⚡/▲ボタンを押して、“⚡”を表示させます。

2 構図を決め、シャッターボタンを半押しします。

3 オレンジと緑ランプの点灯を確認して、シャッターボタンをゆっくり押し込みます。

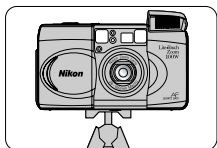
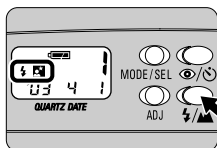
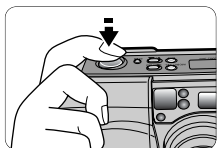
作例

夜景をバックに人物を写す

（夜景ポートレート〈スローシンクロ〉撮影）

夜景や夕暮れを背景にして人物を撮るときに、人物も背景も自然な感じに写せます（フラッシュは必ず発光します）。

三脚を使用してください

夜景ポートレート（スローシンクロ）撮影では、シャッタースピードが遅くなり、手ブレをおこしやすいため、三脚などをご使用になり、カメラを固定してください。

1 カメラを三脚などに固定します。

2 ボタンを押して、"" を表示させます。

3 構図を決め、シャッターボタンを半押しします。

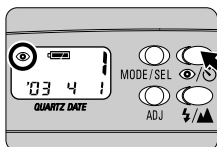
4 オレンジと緑ランプの点灯を確認して、シャッターボタンをゆっくり押し込みます。

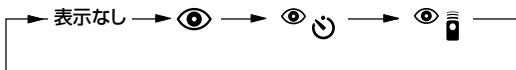
作例

応用撮影

◉/ボタンについて

◉/ ボタンを押して、モードを切り換えると、赤目軽減発光撮影やセルフタイマー撮影/リモコン撮影ができます。

モードの切り換えかた

◉/ ボタンを押して、モードを選びます。

◉/ ボタンを押すごとに、次のように表示が切り換わります。

→ 表示なし → ◉ → ◉ → ◉ →

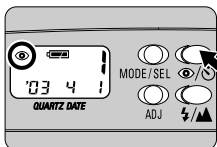
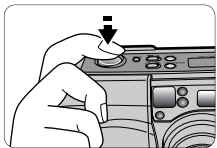
表示	内容
表示なし	**赤目軽減発光モード解除** 赤目軽減発光を解除します。
◉	**赤目軽減発光（☞P.33）** 人物の目が赤く写るのを軽減します。
◉	**セルフタイマー（☞P.36）** セルフタイマー撮影をすることができます。 このモードでフラッシュを発光する撮影のときは、赤目軽減発光になります。
◉	**リモコン（☞P.37）** リモコン撮影をすることができます。 このモードでフラッシュを発光する撮影のときは、赤目軽減発光になります。

目が赤く写る現象を軽減させる

（赤目軽減発光撮影）

フラッシュの光で、目が赤く写るのを軽減したいときに効果的です。

赤目軽減発光撮影について

- ◉ フラッシュが発光するまえに、赤目軽減ランプが約1秒間発光しますので、シャッターがきれるまでカメラや被写体が動いたりしないように注意してください。
- ◉ シャッターチャンスを優先させる撮影にはおすすめできません。

1 **[◉/ꝍ]ボタンを押し、“◉”を表示させます。**

2 **構図を決め、シャッターボタンを半押しします。**

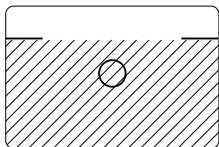
3 **オレンジと緑ランプの点灯を確認して、シャッターボタンをゆっくり押し込みます。**

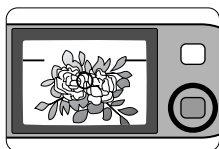
赤目軽減発光は、電源をOFFにしても自動的に解除されません。赤目軽減発光を解除したい場合は、[◉/ꝍ]ボタンを押して“◉”を消灯させてください。

近接撮影する

撮影距離が1mより近いときには、近距離マーク補正マークを使用して撮影します。

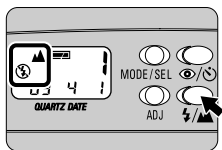
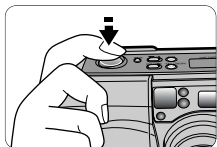
最短撮影距離は約0.65m

花などをできるだけ画面一杯に大きく写したいときに、写したいものに最短で約0.65mまで近づいて撮れます。ズームボタンを望遠側にするとより大きく写せます。

1 近距離補正マークの枠内で構図を決め、シャッターボタンを半押しします。

◉図の▨の部分が写ります。

2 緑ランプの点灯を確認して、シャッターボタンをゆっくり押し込みます。

撮影距離が約0.65mより近づくと、緑ランプが点滅して警告します（シャッターもきれません）。ただし、近づきすぎると（約30cm以内）、緑ランプが点灯しシャッターがきれることがありますが、この場合ピントは合いません。

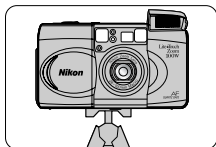
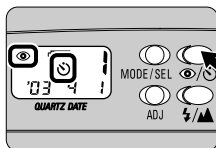
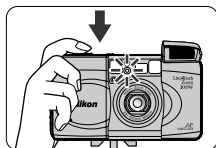
風景や窓越しの景色を写す（遠景撮影）

遠くの風景をよりシャープに写したいときや、窓越しの景色を写すときに便利です。

1 ボタンを押して、“”を表示させます。

2 構図を決め、シャッターボタンを半押しします。

3 緑ランプの点灯を確認して、シャッターボタンをゆっくり押し込みます。

遠景モードでは、フラッシュは発光しません。

セルフタイマー撮影する

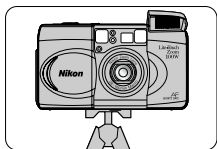
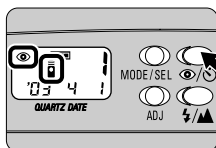
記念撮影など、撮影者自身も一緒に写りたいときに便利です。

1 カメラを三脚などに固定します。

2 ◎/◌ボタンを押して、"◎ ◌"を表示させます。

3 構図を決め、シャッターボタンを押し込みます。

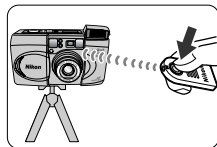
- セルフタイマー撮影では、シャッターボタン半押し時のピントと露出で撮影されます。
- シャッターボタンを押し込むと、セルフタイマーランプが約8秒点滅し、その後約2秒間点灯してシャッターがきれます。
- シャッターがきれると、セルフタイマーモードは解除されます。

撮影しないまま約3分間経過したときや、スライドカバーを閉じると、セルフタイマーモードは自動的に解除されます。

リモコン操作で撮影する

カメラから離れた場所で、シャッターをきりたいときに便利です。

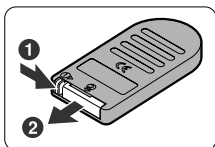
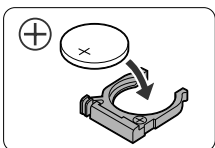
リモコンを初めてお使いになるときは、リモコンに、はさんである透明の絶縁シートを引き抜いてからご使用ください。

1 カメラを三脚などに固定します。

2 ◉/◌ボタンを押して、“◉ ▯”を表示させます。

- リモコン撮影可能範囲は、カメラ正面で約5m以内です。それ以上の距離で撮影するときはセルフタイマーをお使いください。
- 撮影しないまま、約3分間経過したり、スライドカバーを閉じるとリモコンモードが自動的に解除されます。

3 構図を決め、リモコンをカメラに向けて、送信ボタンを押します。

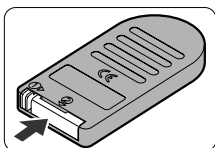
◉送信ボタンを押すと、セルフタイマーランプが約2秒間点灯した後、シャッターがきれます。

◉リモコン撮影後3分以内であれば、続けてリモコン撮影できます。

- 極端な逆光状態では、リモコン撮影できない場合があります。
- リモコンの電池の寿命は約5年間です。送信ボタンを押してもシャッターがきれない場合は、電池を交換してください。（☞P.38）

リモコン電池を交換する

1 電池ホルダー着脱レバーを矢印の方向にスライドさせ、ロックを解除しながら❶、リモコン本体から電池ホルダーを取り出します❷。

2 新しい電池と交換します。

◉電池は、3Vリチウム電池（CR2025タイプ）を1個使用します。

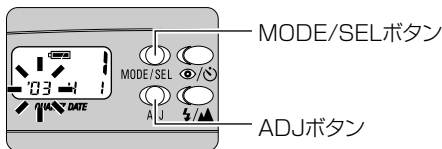
◉ ⊕極を上にして電池ホルダーに入れます。

3 電池ホルダーをリモコン本体にカチリと音がするまで押し込みます。

警告

保管注意

電池は幼児の手の届かない所に置くこと

万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

日付や時刻を修正する

1 MODE/SELボタンを2秒以上押し続けます。

⦿ 日付表示が［年 月 日］、［月 日 年］、［日 月 年］に設定されているときは、修正時の表示は［年 月 日］となり"年"から点滅します。［日 時 分］に設定されているときは"時"から点滅します。

⦿ 電源がONの場合は修正途中に、スライドカバーを閉めたり、途中巻き戻しボタンやズームボタンなどを押すと、そのときの状態で設定されます。

2 ADJボタンを押して、点滅している数値を合わせます。

⦿ ADJボタンを押すごとに、数字が1つずつ増えます。
⦿ ADJボタンを2秒以上押し続けると、数字の早送りができます。

3 点滅している数値を合わせたら、再びMODE/SELボタンを押して、となりの桁の数値を点滅させます。

⦿ 上の手順2、3の動作を繰り返して、年月日または日時分すべてを修正したら、最後にMODE/SELボタンを押し、年月日または日時分すべてが点灯すれば、修正は終了です。

電池を交換したときは

- 電池を交換すると表示パネルには" - - -"が表示されることがあります。
- " - - -"のまま撮影すると、日付や時刻は写し込まれません。1〜3の手順に従って日付や時刻を合わせてください。

参考に

故障かな? と思ったら

次のような場合、アフターサービスを依頼されるまえにご確認ください。確認されても正常に作動しないときは、最寄りの当社サービス機関にご相談ください。

こんなときは		確認事項 → 解決方法	参照頁
シャッター	シャッターがきれない	● スライドカバーが全開していない。 →スライドカバーをカチッというまで開けて電源を入れてください。	14
		● オレンジランプが点滅。 →スピードライトが充電中です。いったんシャッターボタンから指を離し、オレンジランプが点灯してから撮影してください。	13、27
		● 表示パネルに“E”が点灯。 →撮影済みのフィルムが入っています。新しいフィルムと交換してください。	16、17 23
		● 表示パネルに何も表示されない。 →電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。*	14、15
スピードライト	フラッシュが発光しない	● 表示パネルに“⚡”が表示。 →被写体が明るいと発光しません。フラッシュが必要な場合は、強制発光モードにセットしてください。	28、30

こんなときは		確認事項 → 解決方法	参照頁
ピント	ピントが合っていない	● 手ブレしている。 → シャッターボタンをゆっくり押すか、カメラを三脚などに固定してください。 ● 被写体の手前や奥にピントが合っている。 → オートフォーカスフレームに被写体を合わせてシャッターをきってください。ピントが合いにくい場合はフォーカスロック撮影を行うとより確実です。	19、29 31 20、24 25
表示パネル	電源を入れても何も表示されない	● 電池の⊕／⊖ の向きを確かめる。 → ⊕／⊖の向きを正しく入れてください。* ● 電池容量を確かめる。 → 電池が入っていれば、電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。*	15 14、15
	フィルムを入れたのに“1”が表示されない	● “E”が点滅。 → フィルムをもう一度入れ直してください。	16、17
リモコン	リモコン操作でシャッターがきれない	● リモコン操作距離が遠すぎる。 → カメラ正面から約5m以内で操作してください。 ● リモコン設定後、3分以上経過している。 → もう一度、リモコンモードにセットしてください。 ● 逆光状態で操作している。 → リモコン操作の位置を変えてください。 ● リモコンの電池の使用期限（約5年）を過ぎている。 → 電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。	37 37 37 38

* 電池を交換したり、入れ直したときは、日付・時刻がリセットされることがありますので、確認してください。（☞P.39）

電子制御カメラの特性について

きわめて稀なケースとして、外部から強力な静電気などが侵入したことで、表示パネルに異常な表示が点灯したままカメラが作動しなくなることがあります。万一このような状態になったときは、電池を一度抜いて入れ直してください。また、電池を抜くと、日付・時刻がリセットされることがありますので、電池を入れ直した後には、日付・時刻を確認してください。（☞P.39）

取り扱い上のご注意

カメラをご使用にならないときは

スライドカバーを閉じて、電源を切ってください。シャッターボタンが不用意に押されて、電池が消耗するのを防ぎます。

カメラを長期間ご使用にならないときは

カメラから電池を取り出して、高温、多湿となる場所を避けて保管してください。なお、スピードライトのコンデンサーの劣化を防ぐため、月に1度を目安に、電池を入れてフラッシュを数回発光させてください。

カメラを濡らさない

ニコン Lite Touch Zoom100W QDは防水構造ではありません。水しぶきなどがかからない場所でご使用ください。

カメラに強いショックを与えない

カメラは精密機械です。落としたり、ぶつけたりしないよう注意してください。

カメラを保管する際は

閉めきった車の中やトランクの中、ストーブの前などの高温多湿となる場所や、防虫剤の近くを避けて、乾燥剤と一緒に保管してください。

お手入れについて

ホコリや汚れは、乾いた柔らかい布・市販のブロワーブラシやレンズクリーナーなどで取り除いてください。
ファインダーアイピース部の汚れは、メガネ拭きなどの乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。

フラッシュは休ませながら使用する

フラッシュの連続発光を繰り返しますと、カメラや電池の温度が上昇しますので、休ませながらご使用ください。

付属の電池について

付属の電池は、購入時の作動テスト用ですので、寿命が短い場合があります。ご使用のまえに容量を確認してください。(☞P.14)

低温時にカメラをご使用になるときは

低温時に消耗した電池を使いますと、カメラが作動しない場合がありますので、新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互にご使用ください。なお、一時的に性能が低下した電池でも、常温に戻れば性能を回復する場合があります。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問は、ニコンカスタマーサポートセンターへお問い合わせください。
ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、この使用説明書の裏表紙をご覧ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。ご転居、ご贈答品などの理由で、ご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。
当社サービス機関につきましては、この使用説明書の裏表紙をご覧ください。

■補修用性能部品について

ニコンLite Touch Zoom100W QDの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後5年間を目安としております。

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後におきましても修理可能な場合もありますので、ご購入店、または当社サービス機関にお問い合わせください。
- 水没、火災、落下などによる故障または破損で、全損と認められた場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

■製品の保証について

(1) この製品には「保証書」が付いていますので、ご確認ください。

(2)「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様にお渡しすることになっております。「ご愛用者氏名」および「住所」「ご購入年月日」がすべて記入された「保証書」をお受け取りになり、内容をお読みの上、大切に保管してください。

(3) 保証規定による保証修理は、ご購入から1年間となっております。「保証書」をお受け取りになりませんと上述の保証修理が受けられないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

(4) 海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します（領収書がない場合は有料となる場合があります）。

(5) 保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりは、お客様にご負担願います。

(6) 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスにご不明なことがありましたら、ご購入店、または当社サービス機関にお問い合わせください。

仕様

型　式
ズームレンズ内蔵オートフォーカス35mmAEレンズシャッターカメラ

使用フィルム
パトローネ入り35mmDXフィルム（画面サイズ：24×36mm）

レンズ
ニコンズームレンズ28－100mm /f5.8－10.5、6群6枚（非球面レンズ使用）

シャッター
プログラムAE式電子シャッター（絞り羽根兼用）、シャッタースピード：2～1／500秒

ファインダー
実像式ズームファインダー、視野率：約80％以上、
倍率：約0.32倍（28mm時）／約1.0倍（100mm時）、視度：約－1m^{-1}

ファインダー内表示
撮影範囲フレーム（近距離補正マーク付き）、オートフォーカスフレーム、緑ランプ：測距完了表示（点灯）／近距離警告（0.65m 以内）（点滅2Hz）、強制無限モード時（点灯）、オレンジランプ：スピードライト発光予告（点灯）、未充電警告（点滅4Hz）、発光輝度レベル以上時（強制発光、夜景ポートレートモードを除く）（消灯）、強制無限モード時（消灯）、発光禁止モード時（消灯）

距離合わせ
アクティブ測距方式、撮影距離：約0.65m～∞

フォーカスロック
シャッターボタン半押しによるフォーカスロック付き

露出制御
電子制御プログラムAE、
AE連動範囲（ISO100）：EV4～17（28mm時）／EV5.8～17（100mm時）

使用可能フィルム感度
ISO 50、100、200、400、800、1600、3200はDXコードによる自動セット、DXマーク付以外のフィルム使用時はISO 100に自動設定

フィルム装てん
イージーローディング空送り機構、フィルム確認窓付

フィルムカウンター
液晶によるデジタル表示、順算式、巻き戻し時は逆算連動

セルフタイマー
電子制御式、シャッターボタンによるスタート、ボディ正面に作動表示（作動時間：10秒、8秒点滅／2秒点灯の2段階）、途中解除可能

フィルム巻き上げ機能
内蔵モータによる電動式(スプールドライブ方式)、自動空送り、自動巻き上げ(1コマ)、フィルム終端検出による自動巻き戻し、途中巻き戻し可

リモートコントロール機能
専用赤外光を利用、送信ボタンによるスタート、2秒後にシャッター作動、到達距離:カメラ正面で約5m、ボディ正面に作動表示、3Vリチウム電池(CR2025タイプ)1個使用、送信機電池寿命:約5年、大きさ:約60×28×7mm(幅×高さ×厚み)、質量(重さ):約10g(電池含む)

スピードライト
自動発光、発光禁止、強制発光、夜景ポートレート(スローシンクロ)の4モード切り換え可能、低輝度時自動発光、未充電時シャッターボタンロック付、スピードライト連動範囲:(ISO100の場合)約0.65〜3.0m(28mm時)/約0.65〜1.8m(100mm時)、(ISO400の場合)約0.65〜6.0m(28mm時)/約0.65〜3.6m(100mm時)、充電時間:約6秒

赤目軽減発光モード
設定時スピードライトの発光前に赤目軽減ランプを発光(約1秒間点灯)

撮影可能本数
24枚撮りフィルム約15本(50%スピードライト撮影時)

表示パネル
電源スイッチON時:フィルムカウンター表示、スピードライトモード表示、赤目軽減表示、セルフタイマー、リモコン表示、遠景モード表示、バッテリーチェック表示、デート表示

使用電源
3Vリチウム電池(CR123A、またはDL123A)×1個

デート写し込み機構
24時間制、[年・月・日]、[月・日・年]、[日・月・年]、[日・時・分]、[写し込みなし](切り換えは押しボタン式、2042年まで月末、うるう年自動調整、データ早送り修正可能)、電源:ボディの電源を使用、時計精度:月差±90秒以内

大きさ(幅×高さ×奥行き)
約115×65×41.5mm

質　量(重さ)
約200g(電池別)

- データはすべて、20℃、新品電池使用時のものです。
- 製品の外観、仕様は改善のため予告なく変更することがあります。

■使い方に関するお問い合わせのご案内

ニコンフィルムカメラ、交換レンズ、アクセサリーの使い方に関するお問い合わせをお受けしております。

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

0570-02-8000
市内通話料金でご利用いただけます。

全国共通電話番号「0570-02-8000」にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間　9:30～18:00（土・日曜日・祝日を除く毎日）
・このほか年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033**におかけください。

FAXでのご相談は、**03-5977-7499**におかけください。

株式会社ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

YP3C02 (10)